

## 2020 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

|                 |   |
|-----------------|---|
| 担当者名            | 張 艶   |
| 演習テーマ           | 卒業研究  |
| 内容 と 卒業論文の 指導方針 | 学生が主体的に設定した課題について、知識の習得、研究計画の策定、資料収集、課題解決に至る迄の研究を指導します。学生の主体性を尊重し、学生自らが課題に取り組む姿勢を養うとともに、分析・判断・洞察による課題解決能力を養成します。  |
| メール・アドレス        | ellie@k.meijigakuin.ac.jp   |
| オフィス・アワー        | 木曜日昼休み  |
| 授業概要            | 卒業論文の作成を通して、これまでに得た成果を整理・深化させるとともに、自ら課題を設定し、それに向けて取り組み、解決する力を身につけます。一年を通じて卒論の作成・報告・討論・個別指導・修正などを経て、満足のいく完成論文に仕上げることを目指します。  |
| 学習目標            | 卒業論文の作成に向けて、これまでに得た成果を整理・体系化するとともに、必要な知識や手法について識見を高めることを目的とします。   |
| 授業計画            | 3A・春学期<br>【第1回】～【第7回】参考文献と資料の収集、卒論テーマの設定、報告の準備、質疑応答<br>【第8回】～【第14回】卒論の作成と報告、教員の指導<br>【第15回】まとめ<br><br>3B・秋学期<br>【第1回】～【第6回】卒論の作成と報告、教員の指導<br>【第7回】～【第14回】卒論の修正と完成<br>【第15回】まとめ  |
| 予習              | 卒論の作成   |
| 復習              | 指摘された点を参考にして、卒論を修正します。  |
| 授業に関する注意事項      | より良いものをコツコツと最後まで粘り強く書く姿勢は大切です。  |
| 教科書             | 使用しません。   |
| 参考書             | 適宜指示します。<br>・ 斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部、2005年<br>・ 戸田山和久『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』NHK出版、2012年<br>・ 明治学院大学教養教育センター『アカデミック・リテラシー・ハンドブック』<br>・ 滝川好夫『学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル』税務経理協会、2011年<br>・ 滝川好夫『卒業論文・修士論文作成の要点整理 実践マニュアル』税務経理協会、2014年 |
| 成績評価の基準         | 成績評価は平常点(40%目安)と完成論文(60%目安)の割合で行います。  |
| 関連 URL          |   |